

人と化学の未来をめざして
マナック株式会社

CSR報告書 2019

MANAC Incorporated CSR Report 2019

編集方針

“生命の源”と言われる海水の資源から生まれたマナックにとって、地球環境を守ることは使命のひとつです。ステークホルダーはもちろん、地域社会の人々に信頼される企業を目指し、責任ある企業活動を行っています。

本報告書では、「マネジメント」、「環境への取組み」、「安全衛生への取組み」、「社会との関わり」、「持続可能な社会に向けた取組み」の5部構成で、持続可能な社会の実現に貢献するための様々な取組みをご紹介します。

今後とも、CSR活動に取り組むとともに、皆さまとのコミュニケーションを図り、よりわかりやすい編集を目指していきます。

■ 報告対象期間

2018年4月～2019年3月

■ 報告対象組織

マナック株式会社を対象としています。なお、マナックグループの概要、財務ハイライトはマナックグループ連結の数値です。

■ 参考としたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン」、GRI「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン」

CONTENTS

編集方針	1
ごあいさつ	2
マナックグループの概要	3
マネジメント	
企業理念	4
経営理念	4
事業活動	4
中期計画	4
コーポレート・ガバナンス	5
リスク管理	6
コンプライアンス	6
環境への取組み	
マテリアルフロー	7
環境マネジメントシステム	7
省エネルギー	8
地球温暖化防止	9
廃棄物削減	9
化学物質の排出管理	10
その他	10
安全衛生への取組み	
安全衛生管理体制の確立	11
健康の保持増進	12
心の健康づくり	12
保安・防災	13
化学物質安全・物流安全	13
社会との関わり	
地域活動	14
持続可能な社会に向けた取組み	
持続可能な開発目標（SDGs）への貢献	15
持続可能な開発目標（SDGs）との関連性	16

お問い合わせ先

マナック株式会社 社長室

TEL : (03) 3242-2561

FAX : (03) 3242-2564

一人ひとりが情熱と誇りを持ち、多様性を認め合って働ける開発志向型の高収益企業に成長し、社会に貢献します。



代表取締役社長
村田 耕也

ステークホルダーの皆様のおかげで、マナックは昨年創立70周年を迎えました。大きな節目を迎えた中、今年は初めて中期計画を対外的に発表しました。今後さらなる成長を目指すため、新たな取組みに挑戦していく思いを込め、「Challenge for Change ～変革への挑戦～」を今回の中期計画のスローガンにしました。

ここ最近、グローバルの経営環境が大きく変化する中で、自然環境の保護だけではなく、貧困や気候変動、生産責任などこの国でも共通で抱える課題に関心を持たれている方も増えてきております。そのような動きに関連して、特に国連の提唱する「持続可能な開発目標 (SDGs)」が大きく注目されており、マナックにおいてもその課題解決に向けた取組みをしております。今回のCSR報告書の中には、その達成に向け、マナックがどのように貢献しているかを説明してまいります。

マナックは今後とも、海水化学を原点に、臭素化・ヨウ素化技術でスペシャリティーケミカルの革新を起こすこととともに、社会の進化・発展に貢献していくという企業理念を着実に実践してまいります。

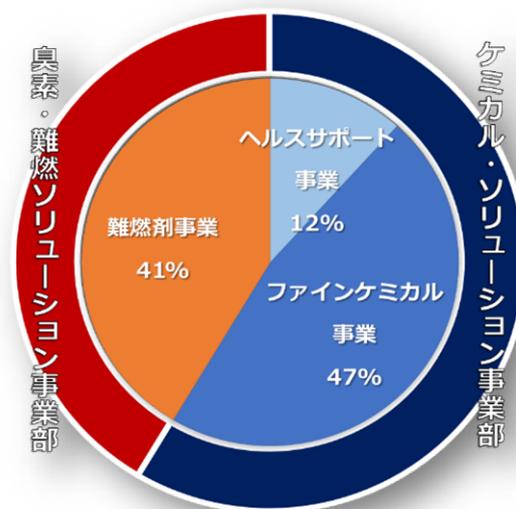
マナックグループの概要

会社概要 2019年3月31日時点

商号	マナック株式会社
設立	1948年（昭和23年）5月
従業員数	189名（グループ従業員数228名）
資本金	17億5,750万円
証券コード	4364

事業所

本社	東京都中央区日本橋3丁目8番4号
大阪営業所	大阪市中央区北浜3丁目5番22号
福山工場・研究所	広島県福山市箕沖町92番地
郷分事業所	広島県福山市郷分町950番地の1



子会社

- マナック（上海）貿易有限公司（中国・上海市）
- 八幸通商株式会社
- エムシーサービス株式会社

関連会社

- ヨード・ファインケム株式会社

連結決算ハイライト



マネジメント

企業理念

『スペシャリティーケミカルをベースに社会の進化・発展に貢献する』
～進化する技術、そして進化する人間をめざして

経営理念

- 1 「地球環境・人間社会に信頼と安全・安心・感動を発信する会社」をめざす
- 2 英知と勇気をもって能力を最高に発揮し、企業価値の最大化をめざす
- 3 明日の未来社会からも注目される会社をめざし、常に『革新』

事業活動

当期における国内経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善が進み、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。世界経済は、米国を中心とした保護主義的な通商政策の影響等により、先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような環境の下で当社グループは、国内における新規市場開拓及び既存顧客への更なる取引深耕、マナック（上海）貿易有限公司が主体となり、中国をはじめとした海外における取引顧客数の拡大にグループが一体となり積極的に取り組んでまいりました。この結果、当連結会計年度における当社グループのは増収増益となりました。

中期計画「Challenge for Change ～変革への挑戦～」

・事業を成長させる重要施策

1. グローバル
2. アライアンス
3. リスクテイク

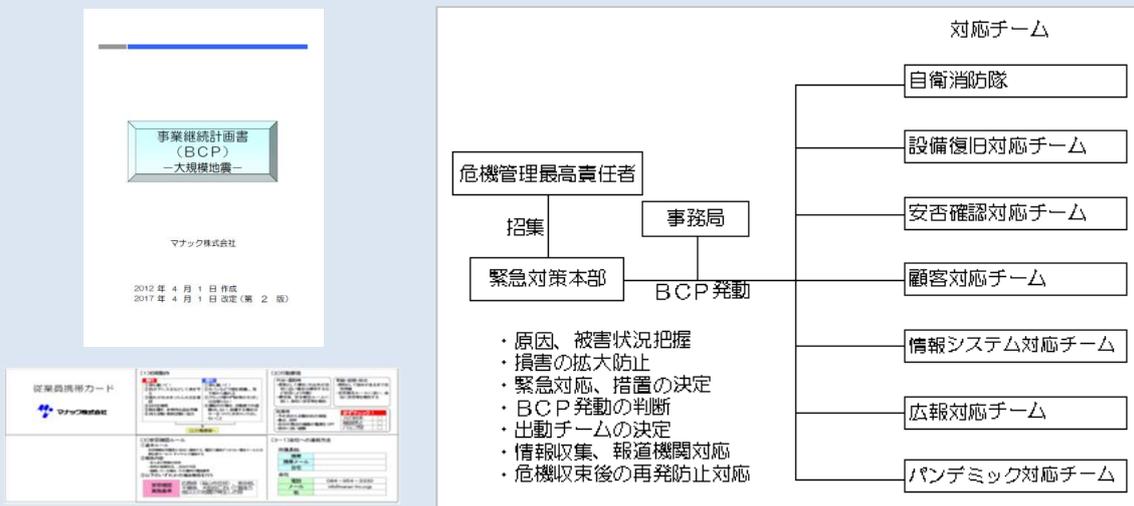
・成長のための基盤固めとしての重点施策

1. ICT/IoT化の加速
2. 人材への投資
3. グループガバナンスの強化
4. 投資基準の明確化
5. 製品リストラクチャリングの徹底

マネジメント

リスク管理

常にさまざまなリスクをあらかじめ念頭において事業活動を行っています。それらのリスクに対応するために、事前の備えと事後の措置として、各種規程を定め、リスクを最小限のものにするために必要な社内体制を確立しています。また、大規模地震を想定した事業継続計画（BCP）に加え、インフルエンザなどパンデミックへの対応も行っています。



コンプライアンス

「企業行動憲章」に基づいた企業活動を通じて、公正で透明性のある企業を目指すとともに、当社のステークホルダーをはじめ一般社会からの確固たる信頼を確保し、企業の社会的責任を果たしていきたいと考えています。

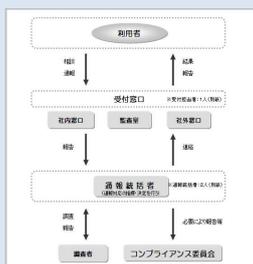
企業行動憲章

2006年7月制定
2013年4月改訂

私たちは、スペシャリティーケミカルをベースに社会の進化・発展に貢献するためにこの企業行動憲章を定めます。私たちは、あらゆるステークホルダーとコミュニケーションを図り、社会的存在価値のある製品を提供し続けたいと考えています。

1. 私たちは、各国・地域の法令を遵守するとともに、高い倫理観をもってグローバルな事業活動を展開します。
2. 私たちは、良き企業市民として、公の秩序に従い、信義誠実な行動を行うと共に社会貢献に努めます。
3. 私たちは、会社情報を適正に管理し、適時、適切に情報開示し、公正で透明な経営を行います。
4. 私たちは、反社会的勢力とは一切の関係を遮断します。
5. 私たちは、人間の人權と人格の尊重はもとより、各国・地域の文化や慣習に配慮し、社会の発展に貢献します。
6. 私たちは、株式公開企業として、地域社会、取引先、株主、投資家、従業員との信頼と関係を大切に考えます。
7. 私たちは、環境と安全に十分配慮します。
8. 私たちは、お客様に満足して頂くため、化学技術を通じて社会に新たな価値を提供します。

内部通報制度

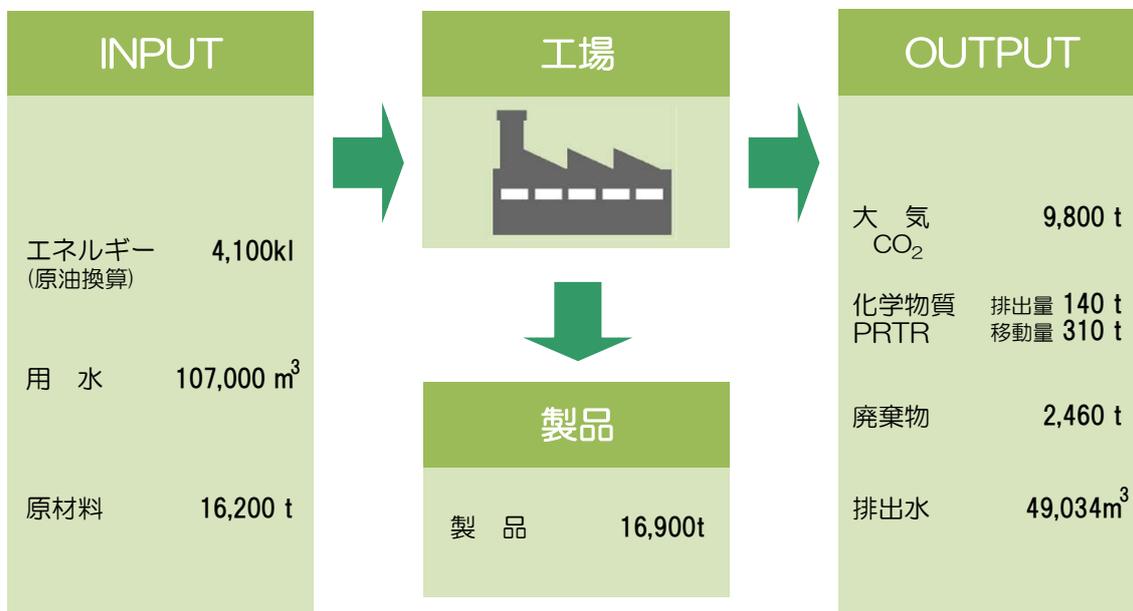


より使いやすく、信頼性もより確保される仕組みを目指して、内部通報制度を運用しています。

環境への取組み

マテリアルフロー

事業活動に伴い投入する資源やエネルギー、排出物質を定量的に把握し、環境負荷の低減や地球温暖化防止対策に役立てています。今後とも省資源、省エネルギー対策とともに、廃棄物の削減、再資源化を推進していきます。



環境マネジメントシステム

ISO14001：2015年版規格への移行後、2018年度はその認証を更新しました。「環境基本理念」、「環境方針」に沿った環境への取組み計画の策定と推進を継続し、活動に取り組んでいます。

■ 環境基本理念

当社は温暖な気候に恵まれた瀬戸内の地に創業し、今日まで企業活動を展開してきました。この恵まれた環境を守ることも企業の使命の1つであると認識しています。

当社の事業は、常に化学物質と向き合っています。

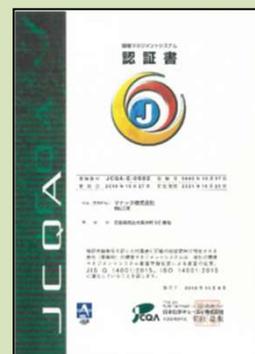
化学物質は、その取扱いを一步誤ると、危険で有害なものであり、地球温暖化や環境汚染のもととして危惧されています。

しかし適切な管理下に取り扱えばその用途は格段に広がります。

当社は、化学物質の有益性を生かしうるために、様々な場面において、環境への影響や、その対策を考えて行動し、社会の進化・発展に貢献するとともに、「地球環境・人間社会に信頼と安全・安心・感動を発信する会社」を目指します。

■ 環境方針

1. 地球温暖化や環境汚染の防止を念頭においた事業活動に努めます。
2. 活動の各段階において、大気への排出の抑制、廃棄物の削減、省エネルギーに取り組めます。
3. 全従業員に対して積極的な教育・訓練を実施し、環境に対する意識と知識の向上を図り、汚染の予防に努めます。
4. 環境保全に関する各種法令・協定等を理解し、順守します。
5. 環境マネジメントシステムを効果的に運用し、定期的にレビューを実施すると共に、継続的改善を図ります。



環境への取組み

省エネルギー

当社はエネルギー管理「特定事業者」であり、生産のほとんどを受け持つ「福山工場」（「第1種指定工場」）を最重点に、全社において省エネルギーを推進しています。

福山工場の熱源であるボイラーは、ガス専焼の小型高性能機を台数制御運転しています。一方、電力削減は、工場の原動機を中心としながら事務/生活系での一般電力も含めた省エネに継続して取り組んでいます。

また2011年以降は毎年、最大需用電力（デマンド）のピークカットを重点課題とする『節電の夏』に注力しております。2018年夏季は前年デマンド内で維持しました。

■ 継続中の取組み

- ・ 省エネ型冷凍機、エアコン、高効率変圧器への更新
- ・ LED電灯の導入（生産施設を含む）
- ・ 屋根の遮熱、緑のカーテン、窓の遮光等により空調の負荷ピークを緩和
- ・ クール・ビズ、ウォーム・ビズ並びに、こまめな消灯や空調停止などの節電活動
- ・ 工程の時間調整によりピーク電力をシフト
- ・ 設定圧力（空気圧、蒸気圧）の低下による負荷低減
- ・ 冷凍機系等の定期整備・更新（熱交換部、冷却塔など）
- ・ 配管、トラップ、保温材などの自主保全活動（洩れ、熱ロス防止）



LED電灯

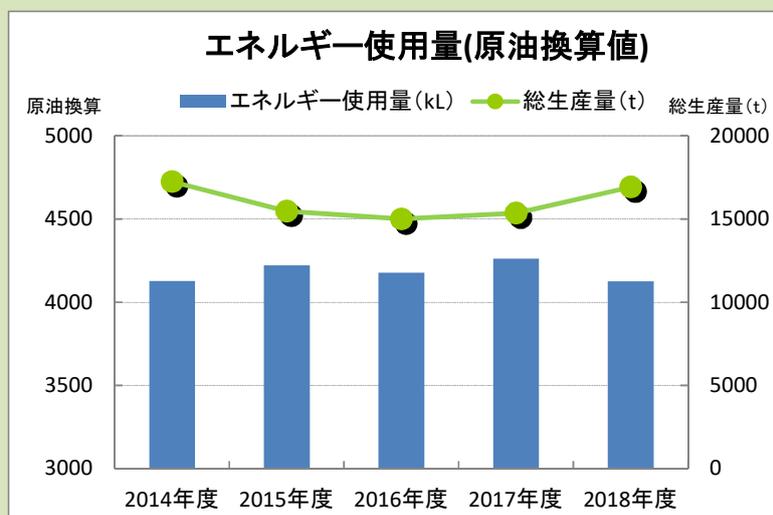


高効率変圧器



■ エネルギー使用量の推移

研究品など高エネルギー消費のものの需要が維持されましたが、他のエネルギー高消費型製品の生産が減少したことから、エネルギー使用量は減少し、単位生産量あたりの使用量も減少となりました。



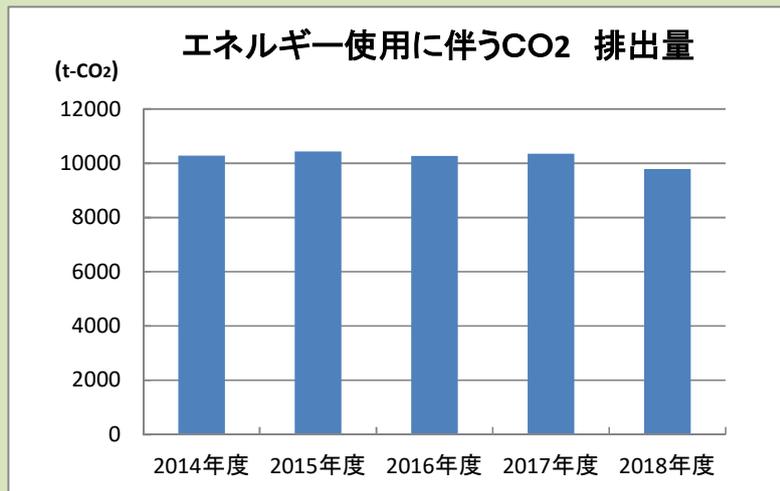
環境への取組み

地球温暖化防止

当社の排出する温暖化ガスのほとんどはエネルギー起因CO₂です。従って、省エネ活動がそのまま地球温暖化の防止活動となります。ボイラーの燃料転換・効率化並びに電力低減に注力する（前頁に記述）とともに、廃棄物発生の抑制（委託先での温暖化ガスの減少に寄与）等にも取り組んでいます。

■二酸化炭素（CO₂）排出量の推移

エネルギー使用量に連動し、CO₂排出量もわずかながら減少しました。

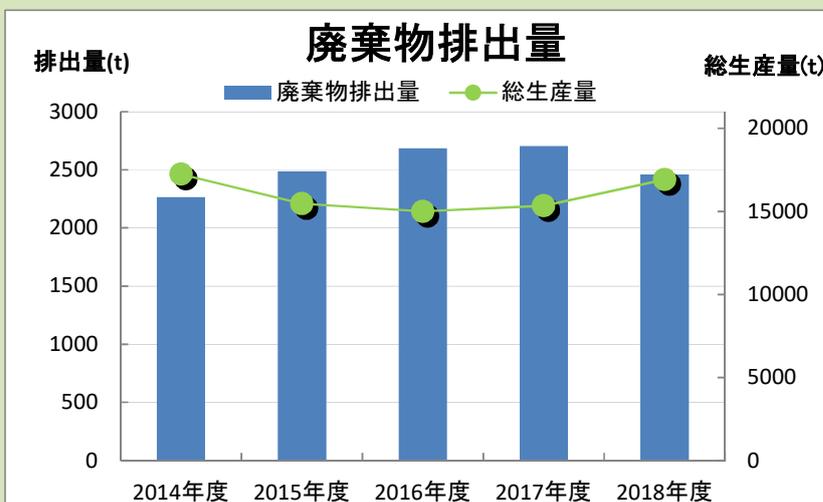


廃棄物削減

当社では、廃棄物の分別回収、溶媒のリサイクル等、廃棄物の適正な処理と再資源化に努めています。また、廃棄物の処理に関しては優良認定処理業者を選択し、3Rの推進を実施して、燃料やセメント原料への転化を行い、循環型社会の構築に貢献しています。

■廃棄物排出量の推移

2018年度は製品構成の変化により総生産量は増加したものの、廃棄物排出量は減少しました。引き続き工程等の見直しや社内での3Rを推進し、廃棄物の発生抑制に取り組んでいます。

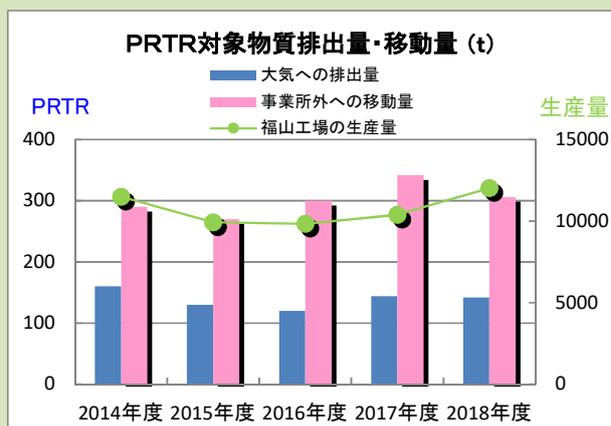


3Rとは
Reduce（リデュース：発生抑制）
Reuse（リユース：再使用）
Recycle（リサイクル：再資源化）
の頭文字をとったものです。

環境への取組み

化学物質の排出管理

「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」（PRTR法）に基づき、その対象事業所となる福山工場においては、化学物質の環境への排出量・移動量を把握しています。対象物質の取扱量が増加傾向にあることから、ISO14001システムとも連動し、環境目標活動として継続的に取り組んでいます。



環境目標活動

- ・ 設備 : 密閉化の推進
冷却能力の向上
- ・ 工程 : 作業方法の改善
除害装置の適正使用
- ・ 取扱者 : 適切な取扱方法の教育

※PRTRとは
「Pollutant Release and Transfer Register」

人の健康や生態系に有害なおそれのある化学物質について、事業所からの環境（大気、水、土壌）への排出量及び廃棄物に含まれての事業所外への移動量を、事業者が自ら把握し国に対して届け出るとともに、国は届出データや推計に基づき、排出量・移動量を集計し、公表する制度です。

その他

環境配慮型製品「AdBlue®（アドブルー）」高品位尿素水溶液設備

ガソリン車に比べて燃費がよく、省エネルギーやCO₂削減の観点から再びディーゼルエンジンが注目され、現在、需要は順調に拡大しています。

当社も需要の拡大に対応すべく、2015年8月に高品位尿素水溶液設備を強化しています。設備は、以前よりも釜容量が大きく、作業スペースも広く設計されていますので、作業性や、生産効率が向上しています。

これからもディーゼルエンジンに対する環境規制は、高度な処理技術が要求される為、厳しい品質規格に適合するように、ライセンスを取得しており、環境配慮型製品として提供しています。



高品位尿素水溶液設備

電動フォークリフトの採用

排ガス対策として電動フォークリフトを採用し、2018年度は20台が稼働しています。

ヨウ素の有効利用とリサイクルの推進

合併企業のパートナーである株式会社合同資源と共同で、限りある天然資源であるヨウ素のリサイクルを推進しています。ヨウ素化合物の効率的な生産体制のみならず、ヨウ素化合物からのヨウ素回収リサイクルシステムを構築し、リサイクルの推進に取り組んでいます。



電動フォークリフト

安全衛生への取り組み

安全衛生管理体制の確立

福山工場の安全衛生方針は、「一人一人の「考動」とみんなの協働により、「事故・災害ゼロ」の信頼される工場となる」を掲げています。安全、安心の社会的な要請が高まる中で、従業員一人ひとりが安全意識を優先した安全に取り組んでいます。基本的なルール、決めたこと、決められたことは守り、その必要性（なぜ）を考え行動する。各人の自主安全「考動」と安全衛生グループによる自主安全衛生活動、そして工場全体、みんなの協働による先取りの安全衛生活動を行うことで、事故・災害ゼロを目指し、安全第一の文化を醸成しています。

※「考動」とは、各自がよく考え、行動に移す事を言います。

■安全衛生活動

労働災害ゼロ、職業性疾患ゼロを目指し、従業員が安全で安心して働くことができる快適な職場環境を整備し、安全衛生の水準向上に努めています。

安全衛生の重点施策として4項目を定め、安全衛生委員会を主体に活動を行っております。また、委員会内に設けたワーキンググループもテーマ毎の自主的な活動を展開しています。

■重点施策

1. 職場リスク低減活動

- ・H・H、K・K活動（ヒヤリ・ハット、キ・ガカリ活動）
- ・危険予知活動 現場KY（危険予知）、指差考動
- ・職場パトロール年間計画による定期と不定期パトロール
- ・安全衛生職場会議（毎月1回以上）
各部署に潜在する安全衛生テーマについて解決に向けた取り組み

2. こころとからだの健康管理

- ・目配り、気配り、声かけ 朝礼、始業、終業時のミーティング等により実施
- ・**smile**（スマイル）運動「明るい笑顔のあいさつ」からを展開
- ・健診事後の積極的対応への促進による定期健康診断有所見率の改善の取組

3. 5S活動（整理・整頓・清掃・清潔・躰（しつけ））実践

- ・定物定位
置く場所（定位置）が決まっている物については、使用した後に、再びもとの位置（定位置）に戻す
- ・一仕事一片付けの定常化
作業の区切りで片付けをする

4. 化学物質リスクアセスメント

- ・継続取り組み

※H・H、K・K活動（ヒヤリ・ハット、キ・ガカリ活動）

結果として事故などに至らなかったが、「ヒヤリ・ハット」した経験、そうなる危険があるのではと、「キ・ガカリ」に思っていることを職場で共有することによって、危険や事故を未然に防止する活動。

■その他の安全衛生活動

1. ワーキンググループによるテーマ別活動

- ・安全教育の企画（危険物の安全な取扱い、静電気の防災、等）
及び安全の日（毎月1日）の行事の推進
- ・H・H、K・K活動の推進及び結果報告
- ・5Sにより保管管理の充実

2. 安全衛生パトロール

（役員、産業医、安全管理者、衛生管理者）

3. 全国安全週間、全国労働衛生週間の行事企画推進

4. 外部関連団体との連携安全管理体制の確立



安全衛生パトロール

安全衛生への取り組み

健康の保持増進

当社では、従業員一人ひとりが健康に過ごせるよう、年2回の定期健康診断を行い、検診の結果、再検査が必要な場合や、所見がある場合には、産業医による個別のフォローを実施するなど、生活習慣病などの予防に努めています。その他、広島県の健康関連事業と連携し取り組んでいます。

産業医による健康管理、衛生の指導
産業医による心と身体の健康相談（毎月）
検診機関 保健師による日常の生活改善指導、健康への支援
衛生講習会「お酒との上手な付き合いかた」開催
季節要因による流行疾患の情報（毎月）
産業医職場巡視による衛生面、健康面の指導（毎月）

心の健康づくり

メンタルヘルス対策として、全従業員を対象とした「心の健康診断」講習会を実施し、心と身体の健康管理に取り組んでいます。

■心の健康づくり計画

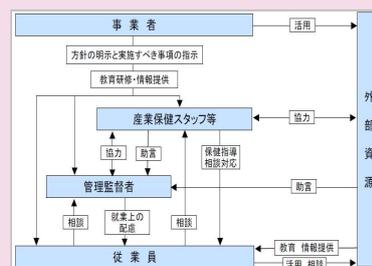
従業員とその家族の幸福な生活のために、また事業場の生産性及び活気のある職場づくりのために重要な課題であり、メンタルヘルス不調への対応だけでなく職場のコミュニケーションの活性化などを含めて広い意味での心の健康づくりを推進しています。

2015年12月の労働安全衛生法改正により、ストレスチェック制度が創設されました。

ストレスチェックの目的

- ・一次予防。（従業員のメンタルヘルス不調の未然防止）
- ・自分自身のストレスへの気づきを促す。
- ・ストレスの原因となる職場環境の改善につなげる。
- ・メンタルヘルス不調への対応し予防する。

当社では、2010年に心の健康診断の実施を開始し、2012年度から心の健康づくり計画により運用しています。



心の健康づくり体制図

■心と身体の健康づくり、明るい職場環境の推進

社外専門家のケアによる、家族を含めた心の健康診断相談の窓口を設置しています。

■メンタルヘルス講習会

従業員を対象として、外部講師の臨床心理士によるメンタルヘルスの講習会を開催しました。

「メンタルヘルスの基礎知識とセルフケアの方法」と題し、「健康に働いている状態」から「メンタルヘルス不全」までのプロセスとその対策が説明されました。

自身のメンタル不調に気付く指標や、周りでいつもと感じが違う人がいたら、周囲がどう行動すればメンタル不調を防げるかのほか、不調時の脳内ホルモン、腸の状態を知り、食事や運動、光の取り入れ方や呼吸法などに留意することを学びました。



メンタルヘルス講習会

安全衛生への取り組み

保安・防災

工場では、危険物施設や薬品保管施設などでの事故発生（火災・爆発、漏洩）を想定した対応訓練を繰り返し行い、防災に関する継続的なレベルアップに努めています。また、自然災害（地震、津波）への対応と緊急用資材・備蓄品等も定期的に確認し、BCPの一環としております。

【近年の防災訓練実施状況（福山工場）】



年月	事故想定
2014年 9月 11月	薬液配管破損・漏洩 異常反応によるガス発生
2015年 6月 11月	薬液貯蔵タンク破損・漏洩 高圧ガス接続部破損・ガス漏洩
2016年 5月 11月	ガス接続部破損・ガス漏洩 (同上) 指揮・連絡訓練
2017年 6月 11月 3月	設備破損・薬液、ガス漏洩 設備破損によるガス漏洩 地震～集合～点呼～安全確認
2018年 6月 11月 3月	異常反応によるガス発生 薬液貯蔵タンクの配管破損・漏洩 地震想定 机上訓練 ～安全確認、安否確認

化学物質安全・物流安全

便利で快適な私たちの生活は、さまざまな化学物質に支えられていますが、これらの化学物質は多くの法令などにより規制されています。改正された法令には随時対応し、安全な取扱いを心掛けるとともに、SDS、ラベル、イエローカード等により、お客様や物流関係の方にも情報を提供しています。

■ GHS対応

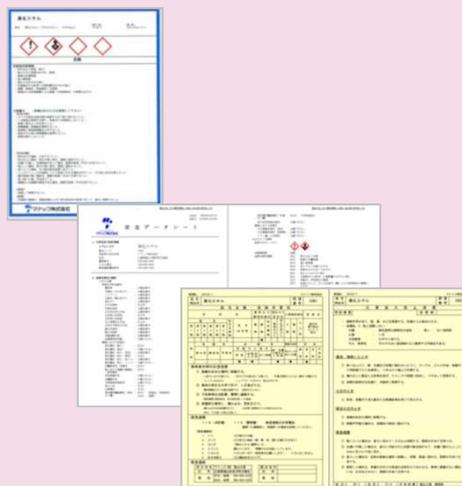
化学品の分類及び表示に関する世界調和システム（GHS）に基づいて、化学品の危険有害性を一定の基準に従って分類し、絵表示などを用いて分かりやすく表示したラベルへの対応を進めています。

■ SDS（安全データシート）による情報提供

化学品の安全な取り扱いを確保するために、化学品の危険有害性等に関する情報を記載した文書SDS（安全データシート）をお客様に提供するとともに、社内の担当者にも通知し、取扱い時の注意喚起を促しています。

■ イエローカード

万が一の輸送中の事故に備え、物流安全指針に沿って、運転手や消防・警察などの関係者が取るべき処置を記載した緊急連絡カード「イエローカード」を作成し、輸送中の注意喚起を促しています。



社会との関わり

地域活動

当社では、地域社会の一員として、よりよい社会をつくるための取組みとして、様々な地域活動へ積極的に参加しています。

災害ボランティア活動

2018年7月の西日本豪雨災害において、福山や隣接する市町村も大きな被害を受けました。福山市内を初めとした近隣地域の民家の土砂掻き出しや床板はがし、庭の片付けなどのボランティア活動に参加しました。当社は地域社会の一員として、社会貢献に努めてまいります。



地域の学校とのかかわり

福山工場近隣の小学校などに、小学生新聞、英字新聞の提供を続けています。

また、2018年度は市内の工業高校にて行われた「第10回高校生技能オリンピック」にて、県の要請を受け化学分析部門の審査員をつとめました。



清掃活動

従業員による事業所周辺の美化活動を継続して行っており、除草作業も定期的に行っています。これらの活動を通じて地域の環境美化活動に努めます。



消防競技大会

第50回福山地区消防競技大会が2018年10月に開催されました。地域における消防活動の充実に寄与することを目的として、消火器危険物施設の部に出場し、2年連続優勝の成績をおさめました。



近隣企業とのかかわり

福山箕沖団地協議会は、団地内の約70社の企業が参加し、情報交換や団地内の環境改善を行っています。

また、団地内で開催されるサッカー大会、ボウリング大会などを通して従業員同士も相互に親睦を図っています。



持続可能な社会に向けた取り組み

持続可能な開発目標（SDGs）への貢献

マナックは幅広い分野で使われている化学品の中間体の製造を通じて社会に貢献しております。中でも特に健康と福祉分野に大きく関連しております。具体的には医薬中間体、難燃剤などの製造になります。マナックの製品を使うことにより、安全かつ快適な生活環境づくりが実現可能になります。また、雇用機会の創出や研究開発の産学提携により、地域経済の活性化にも貢献しております。



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

■マナックの経営基盤

スペシャリティーケミカルで 社会の進化・発展に貢献

持続可能な開発目標 (SDGs)



立 需 原 環 人 社 統
地 要 料 境 材 会 制

安定生産

マナックは1948年の設立以来、海から生まれた臭素化・ヨウ素化技術を進化させ、電子・情報・医療分野をはじめとする先端技術産業からの「高度なニーズ・潜在的なニーズ」にお応えすべく製品開発を進めています。また、持続可能な社会に向け、直面した課題に配慮した活動にも取り組んでおります。このような経営方針のもとで、企業活動を行い、『スペシャリティーケミカルをベースに社会の進化・発展に貢献する』という企業理念の実現を目指しています。

持続可能な社会に向けた取り組み

持続可能な開発目標（SDGs）との関連性

化学品製造という本業以外に行う環境保護活動のほか、マナックでも既に本業の中でSDGsへの貢献に関連する取り組みが行われています。マナックの製品が世の中に広まることに伴って、SDGsの目指す「誰一人取り残さない、持続可能な社会」の実現に近づきます。実際にマナックではどのような点がSDGsのターゲットの実現に貢献しているのかを見ていきます。

■ 臭素・難燃ソリューション事業部 難燃剤及び難燃材料に関連するビジネス

・ 断熱材用難燃剤



・ サニタリー製品や冷蔵庫等家電製品用難燃剤



・ 下水道の水処理薬剤



■ ケミカル・ソリューション事業部 医薬品や電子材料の中間原料に関連するビジネス

・ 医薬品の原薬や中間体、人工透析薬剤用原料



・ 抗菌剤（Etak®）



・ ポリイミド樹脂、有機ELの原料



■ 全社共通



人材雇用機会の創出



総合排水処理施設及び
廃棄物処理の整備



クリーンエネルギー
による生産活動



産学提携などの
研究開発活動



ボイラーの燃料転換、
電動フォークリフトへの転換

